



学位論文審査の結果の要旨

平成 27 年 12 月 16 日

審査委員	主査	平尾 智 広 		
	副主査	岡田 宏 基 		
	副主査	木下 博 之 		
願出者	専攻	社会環境病態医学	部門	環境医学
	学籍番号	12D762	氏名	片山 昭彦
論文題目	Evaluation of physical activity and its relationship to health-related quality of life in patients on chronic hemodialysis			
学位論文の審査結果	<input checked="" type="radio"/> 合格	<input type="radio"/> 不合格	(該当するものを○で囲むこと。)	

〔 要 旨 〕

【目的】血液透析患者において、健康関連QOLと身体活動量との関係を明らかにし、健康関連QOL改善支援のための方法を検討することを目的とする。

【方法】対象者は、2012年に本研究に関して同意が得られた広島県内の病院に通院する血液透析患者48名（男性31名，女性17名）である。健康関連QOLの測定はEQ-5Dを用いた。身体活動量の測定は活動量計 アクティマーカー（Panasonic社製）により、約2週間行った。

【結果】EQ-5D効用値は、非透析日の4METs以上の身体活動量と有意な関連を認めた。[EQ-5D効用値 = 0.300（非透析日の4METs以上の身体活動量） + 0.695, $r^2 = 0.181$, $p = 0.0026$]

【考察】本研究から、血液透析患者においては、特に非透析日の身体活動量確保が重要であることが示唆された。今後、縦断研究等を通して、よりよい血液透析患者の生活習慣改善支援法を検討していく必要がある。

【結論】血液透析患者において、健康関連QOL改善のためには、非透析日の4METs以上の身体活動量が関係している可能性が示唆された。

本研究に関する学位論文審査委員会は平成27年12月8日に行われた。

本研究は、血液透析患者において、健康関連QOLと身体活動量との関係を明らかにし、健康関連QOL改善支援のための方法を検討することを目的としたものである。健康関連QOL改善のためには、非透析日の4METs以上の身体活動量が重要であることを指摘している。結果に対する十分な考察もなされており、本研究で得られた成果は当該分野において実用的意義があり、学術的価値も高い。委員会の合議により、本論文は博士（医学）の学位論文に十分値するものと判定した。

審査においては

- ・ 研究デザインの妥当性について（対象、コントロールの設置、測定方法等）
- ・ 統計を含めた分析方法について
- ・ 健康関連QOLの指標として用いたEQ-5Dの妥当性について
- ・ EQ-5D測定の時期、方法について
- ・ 身体活動量の測定方法とその妥当性について
- ・ 結果に与える原因疾患の影響について
- ・ 結果に与える性差の影響について
- ・ 結果に与える社会的経済的背景の影響について
- ・ 透析患者における4METs以上の強度の運動の持つ意義は何か
- ・ 透析患者において運動介入によりQOLの向上は見込めるのか
- ・ 将来の研究の方向性について、等などについて多数の質問が行われた。

申請者はいずれにも明確に応答し、医学博士の学位授与に値する十分な見識と能力を有することが認められた。

掲載誌名	Environmental Health and Preventive Medicine 第19巻, 第3号		
(公表予定) 掲載年月	2014年2月	出版社(等)名	Springer

(備考) 要旨は、1,500字以内にまとめてください。